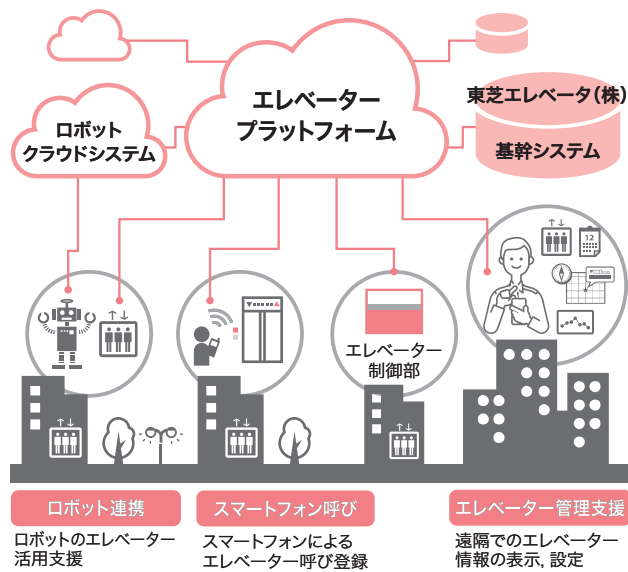


## ■ クラウド型基盤システムを活用したエレベータープラットフォーム



エレベータープラットフォームシステムの概要  
Overview of software-defined elevator system

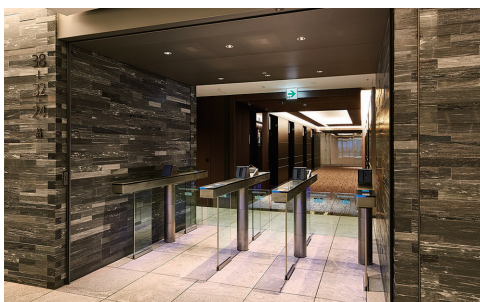
社会環境の急激な変化や、ライフスタイルの多様化に伴い、エレベーターの利便性・快適性向上への期待が高まっている。このような期待に応えるために、ソフトウェア定義のコンセプトに基づき、建物に設置されているエレベーター制御部にソフトウェアを顧客ニーズに応じてタイムリーに配信する、エレベータープラットフォームを開発した。

これにより、新しい機能やサービスを適切なタイミングでアップデートでき、利用者の利便性向上や建物運營業務の負荷低減とともに建物価値向上に貢献する。昇降機のソフトウェア定義により実現する新しい機能やサービスの一例として、エレベーターとロボットの連携サービス、スマートフォン呼びサービス、エレベーター情報の表示や設定が行えるエレベーター管理支援サービスなどがある。

今後も、安全・安心な移手段に加えて、人々のライフスタイルを支える新しい機能やサービスを、充実させていく。

東芝エレベータ(株)

## ■ 乗り場行き先階登録システムFLOORNAVIに入館管理システムとの連動機能を追加



FLOORNAVIと連動するセキュリティゲートの行き先階表示  
Destination floor display for security gates controlled by FLOORNAVI elevator group control system

エレベーターの乗り場行き先階登録システムFLOORNAVIに、入館管理システムのセキュリティゲートと連動して、自動的に行き先階を登録できる機能を追加した。

FLOORNAVIは、利用者が乗り場で行き先階を登録するもので、人数や行き先階を把握し、エレベーターの群管理制御によって効率的なエレベーターの運行管理ができる。今回、建物設備であるセキュリティゲートに設置したカードリーダー装置と連動して行き先階情報を登録できるようにした。また、行き先階登録に、非接触で行える顔認証セキュリティ機器や2次元コードを活用している。

セキュリティゲートで認識した利用者の行き先階情報は、エレベーターの群管理制御盤を介して、セキュリティゲート内の表示装置に伝送される。製品化にあたっては、表示の応答速度や表示装置の省スペースに配慮した設計とした。

初号機は、2023年3月に開業する東京ミッドタウン八重洲<sup>(注)</sup>に納入した。

(注) 三井不動産株式会社が東京都中央区で開発を推進している複合施設

東芝エレベータ(株)